

## 雲南市地域自主組織連絡協議会と市長との意見交換会

### 【日時】

令和6年9月9日（月）13:30～15:20

### 【会場】

雲南市役所 205・206 会議室

### 【参加者数】

11人

### □意見交換

#### ■大東町

##### ①ドクターヘリの専用ヘリポート確保について

市内にはドクターヘリの臨時離着陸場が38施設指定されている。近年、ドクターヘリの発着が多くなっている現状があるが、施設への散水、立ち木や周辺民家への配慮等（学校施設なども含む）ドクターヘリが安全に離発着できる施設が少ないように感じられる。そのような状況からアスファルト舗装等整備された専用の発着場の確保をお願いしたい。

- ・大東町ではサッカー場と旧ゆとりの里の2箇所の利用が多い。
- ・サッカー場は特に多く、子どもたちが使用している場合は退避の必要あり。
- ・サッカー場周辺は民家が多くなり、発着時に音と風がすごく周辺への影響が心配。

#### 市長）

- ・ヘリポート付近の方には我慢をいただいている。地域の皆さんの理解のおかげである。
- ・河川敷などが適地だが、赤川は適当な河川敷ない。
- ・適地があれば議論進む。候補地などを地域でも検討され情報をいただきたい。

##### ②大東高校魅力化施策について

少子化が進み地域の環境が大きく変化する中で、大東高校においても、今年度より定員数が120名から90名に削減され入学者は52名と充足率は57%となっており、定員割れの状況が続いている。

学校においては、生徒数の確保のためオープンスクールの開催や、市内外の中学校への説明会を積極的に行われるなど学校の情報発信・PRが行われている。市においても生徒数の確保のため昨年度のところで、寄宿舎の整備が図られた。また、新しい部活動の検討をされるなど生徒数の確保に向けて様々な取り組みがされている。

大東高校の存続については、地域にとっても大変重要なことであり少子化が進む中、生徒数の確保（増加）となるよう、大東高校のさらなる魅力化や交通の利便性の向上を図るなど更なる施策をお願いしたい。

市長)

- ・大東高校と大東中学校の連携も昨年度から取り組み始めている。
- ・特色ある部活動という点では、全国にスカウトに行くなど取り組んでいる。
- ・一畑バスの代替バスも対応。木次線を使い通ってもらえるような方策も考え、JRにも意見を述べており、利便性向上にもつとめている。
- ・市内だけでなく、市外からも生徒を確保できるよう高校や卒業生、地域と連携して取り組むことも必要である。

### ③コウノトリの営巣活動について

今年度3月～4月にかけて、コウノトリの営巣活動が大東町において3組あった。2組は巣塔に居ついたが1組は営巣できず子育てもできなかった。来年春もこれ以上の活動が想定され5組・6組と営巣活動が行われた場合備えがあるのか。また、あらかじめ巣塔を何塔か立てるため予算化しておき餌場、縄張りとの関係で用地の確保をすることができないか。コウノトリの子育てに必須である田への「よけじ」の造営を各地で取り組むことはできないか。

市長)

- ・巣塔下部の糞の問題などもあるが丁寧に対応したい
- ・大東交流センターの巣塔にはすぐに来たが、加茂や日登には巣塔を建てても来てない状況。建て方などの工夫も必要。
- ・「よけじ」の設置や冬場の水張りなども呼びかけたい。繁殖できる環境の維持につとめる。

### ④大東体育文化センターの跡地利用について

現在、大東体育文化センターについては解体工事が進められている。解体された体育施設部分について、大東公園市民体育館テニスコート周辺に施設を増設するなどの案があるが、テニスコートの代替として大東体育文化センターの跡地に移設してはと考える。また、整備されたテニスコート周辺の空き部分については駐車場として整備してはどうか。

施設利用の状況によりテニスコートの新設が必要であれば駐車場として整備を行い、その場合大東高校のテニスコートの一部を一般へ開放するなど対応できないか。

市長)

- ・さまざまな意見をいただきながら検討中であり、今後も意見の取りまとめなどに引き続きご協力いただきたい。

### ⑤桂荘を含めた海潮温泉の活性化について

海潮温泉は、「出雲國風土記」にも記述の残る名湯で、松江の奥座敷、山あいの秘湯としての人気から、以前はたくさんの観光入込みのお客さん（ピーク時にはおよそ年間16万人の入込客）があった。企業努力はされているものの、民間の温泉旅館も1戸となるなど海潮温泉旅館街の空洞化が進んでいる。当地の温泉については市の重要な観光資源、市民の健康増進の場としてとらえている。周辺一帯が活性化するような方策を検討いただきたい。

市長)

- ・三刀屋町で建設予定のホテルドメインで海潮温泉の湯を使用する。それにより宣伝効果も狙っていききたい。
- ・現在営業している旅館は1つ。温泉地を再生するには、民間と一緒に取り組むこと必須。民間への声掛け民間事業所等と縁が結べるよう協力を願いたい。

#### ⑥大災害(大雨)対策として河川の寄り洲(河川内の立ち木を踏めた)撤去について

市内全域の河川において経年的に川道内への土砂の堆積、また、堆積した土砂へ樹木が繁茂するなどの状況が見受けられる。こうした堆積土砂は、河川の流下能力を低下させるので洪水被害を未然に防止するためにも計画的な河川の状況確認と速やかな撤去を行っていただきたい。

市長)

- ・要望頂く河川の多くは県管理河川。都度雲南県土整備事務所に要望をしている。基準を超えれば対応すると回答をもらっている。
- ・環境面と治水面では見解が異なる、樹木繁茂など見た目は悪くても治水上は問題ない場合もある。
- ・情報や意見、河川パトを通じての確認などをもとに必要な対策に取り組む。

#### ⑦農業振興について

①鳥獣被害②近い将来の担い手確保③気候変動による作物への影響と炎天下での農作業の困難さなどあげられる。①の鳥獣被害対策は自治会単位での助成が主であるが山間の谷で構成されているところは対策がより困難となっている。農業者が少ない自治会では全体での対策がまとまらず個人での実施が多くみられる。被害防止計画段階で行政の支援があれば具体的な対策案が生まれ易い。防止方法、設置場所、経費等の相談に乗っていただきたい。

耕作放棄地に県外業者が太陽光パネル設置の動きがあり対策が課題。街中でもそうした動きに反対運動もある 耕作放棄地の所有者は早く売りたい気持ちが強い。市としても太陽光推進しているが農業振興が図られればこうした課題も解決につながる。

市長)

- ・有害鳥獣対策予算は制限を設けず取り組んでいる。
- ・イノシシについては通年駆除に制度を変えた。猿については昨年度田井地区で、今年は日登地区で大型オリにより群れごと捕獲する対策を実施している。田井地区では成果あり、効果があるのでどんどんやるよう指示している。継続して取り組む。
- ・耕作放棄地や太陽光発電について  
農地を残す取り組み必要。農業の地域計画策定中。守るべき農地を選定ししっかりと取り組んでいく。計画上線引きをした中の農地では、太陽光発電設置などは難しくなる。担い手対策にも取り組む。

#### ⑧主要地方道松江木次線、大東東出雲線改良工事の早期完了のお願い

特に主要地方道松江木次線は改良工事着工からかなりの年数が経過しており、進捗が悪くあらゆる面で車社会において不安や不便を与えている。両路線とも市境の峠道であるため、住みよい雲南市を目指すうえで一刻も早い供用開始をお願いしたい。松江勤務の住民多い。ベッタタウンとして居住してもらえよう一刻も早い改良を望む。

市長)

- ・いずれの路線も松江管内の改良である。
- ・先日、知事に要望に行った際にも両路線については地域の思いが強いことを伝えている。

**⑨雲南市内全域にわたる人口減少に歯止めが掛かる政策の要望**

2030年、2035年、2040年問題と将来を考え、当面2030年問題で私たちの住む地域に置き換えた時、人口の急減・超高齢化の進行により、空き家の増加、農地や集落間の道路の荒廃、鳥獣被害、山間部で生活する高齢者等の日常の買い物に困難を感じるなどの様々な問題があげられる。国における政策が前提にあるが雲南市において人口減少にはどめをかけるための政策についてお願いしたい。

市長)

- ・「合計特殊出生率を高めること」と「子どもを育てる世代を確保すること」の2つの対策が必要。
- ・子どもを育てる世代の確保については、UIターン対策も引き続き強化する。
- ・合計特殊出生率を上げる取り組みが非常に難しい。結婚後の出生数を持つ数は雲南市比較的多いが、結婚する人が少ないのが課題。結婚対策は難しい面がある。第3次総合計画でも重点に位置付け取り組む。

**⑩合併20周年を振り返り、地域自主組織の在り方を考えて頂きたい。**

市長)

- ・地域自主組織の今後のあり方については、地域自主組織自身でも議論を深めていただくことも重要。
- ・30地区でそれぞれの環境、課題のなかで、それぞれに向き合っている。
- ・自主的な取り組みが難しい部分はどうすればできるのか、相談をいただきながら進めたい
- ・地域自主組織の基本的な存在意義はこれまでと変わらない。協働のまちづくりに非常に重要な役割を担っている。役割に難しいケースがあった場合には市と地域で一緒に考えていく必要がある。

**■加茂町**

**①加茂の住宅用地について**

- ・加茂では、3地区で住宅団地開発の要望をしているが進捗状況について市から情報提供なし。
- ・農地の担い手がいなくなったとはいうものの、農地を手放すことは大きな決断。その決断をされた土地所有者のみなさんにきちんと情報提供が必要。やらないにしても方針を伝えること。市の考えを教えてほしい。加茂地区の皆さんの意見を受けて要望している。

市長)

- ・土地開発公社で検討している。今後 10 年間の計画を立てている。公社で整理しており地域からの提案を大事にしながら検討を進めているところ。
- ・大きな開発になると、環境への配慮や地盤、コストのことなど様々な検討が必要。小さな団地であれば対応は早いですが、大規模な開発は時間がかかる。

### ②防災について

- ・加茂では防災が一番大きな課題。加茂は地勢的に災害と切っても切れない。
- ・中心部が赤川よりも低い場所にあるのはしょうがない。住民へ少しでも安心感を市として示してほしい
- ・中小河川の寄り州撤去なども要望しているが、建設部からは結論的には「できない」という回答の繰り返し。昔と違って時間雨量が非常に多く、水位の上昇がとても早くなった。市としても何らかの対策が必要である。
- ・地域自主組織でも早めの避難を呼びかけ、防災訓練もしているが 100 人以上が避難するような訓練はできていない。今後対応できるような訓練も展開していきたい。市から訓練等のサポートも頂きたい。
- ・何百人も避難されても、今の環境では小学校への避難難しい。避難施設が災害対応に適していない。災害対応ができるようなインフラ整備（施設整備等）も考えてほしい。

市長)

- ・防災対策の工事は、斐伊川流域の治水事業の効果をみながら考えざるを得ない。斐伊川放水路の整備により改善されていると理解している。
- ・地域自主組織で実施される避難訓練等へのサポートは市としてしっかり行っていく。
- ・体育館の避難所機能については体育館利用はあくまで緊急的なもの。大災害になれば仮設住宅などの対応となる。災害対応用の体育館整備という考えは今のところ持っていない。

### ③地域自主組織について

- ・地域自主組織と市との基本協定を締結しているが、市が拡大解釈しているように思う。
- ・市からの業務が多い。協定に基づいている仕事なのか疑問なことが多い。
- ・地域によって事情は異なり、地域自主組織は主体性を持って取り組めるカタチを。そのために、財源は当然必要。活用に制限のある財源ではなく、より自由に使えるような財源支援を。加茂では自主財源の確保は難しい。基本協定も含めて地域自主組織と市との関係をもう一度整理してほしい。

市長)

- ・地域自主組織の主体性を高めてもらう方策や支援に引き続き取り組んでいく
- ・活動交付金について課題があれば所管課と検討する。

#### ④8月20日付新聞紙上での市長のコメントに対して

- ・市長の木次線等についてのコメントが新聞に掲載されていた。
- ・木次線での通学の利便性を高めるダイヤ改正ということもあったが、ダイヤ改正だけでできるのか。出雲空港から宍道駅へのアクセスも実現可能性があるのか。見込みや根拠があることなのか。
- ・JRをはじめ、企業は当然利益を追求。木次線は利用者少数ながらいる。存続は考えていかないといけないが現実的に難しい面も。木次線を残す議論をしながらも、一方で廃止になった場合の対応を検討していくこと必要。仮に廃止になった場合に有利な条件を得られるように交渉を進めることも必要。
- ・市の事業はすべて税金。意義があるものにしなければならない。JR木次線維持する意義などをきちんと説明する責任がある。
- ・ラメール整備も進めてもらっているが、市内の公共施設を残しながら財政維持していくことは難しいのでは。
- ・人口の社会減について地域をなぜ出なのか子ども達の意見を聞いたことがあるか？
- ・その場しのぎの対応ではいけない根拠のある説明と対策を。

市長)

#### ●JR 木次線

- ・公共交通がどうあるべきか、国でしっかりと方向性が示されない中で、市に責任を負わせているように感じている。国が地域交通として鉄道をどうしていくべきか示すことが前提であり、廃止前提の議論には応じられない。
- ・ダイヤ改正については、雲南市から松江市には行きやすいが、松江市から雲南市への便が悪い。観光利用については出雲空港からのアクセス改善が必要である。宍道駅での待ち時間が長いなどの改善を要望している。

#### ●定住関係

- ・移住・定住に関しては昨年度市内高校3年生との意見交換を行った。就職先などをどう考えているかなど聞く機会を持った。今後も機会を持ちたい。
- ・住む場所と就職先は異なったり、一度市外へ出ても戻ってくる場合もある。自分の経験もあるが、一旦市外へ出たとしても地元へ帰ろうと考えてもらえるような環境づくりをすすめたい。人生のあり方を考えてもらえるような情報提供なども必要。

#### ●公共施設整備

- ・公共施設整備は、新たに建設するのではなく現在ある施設を有効活用していく考え方が基本。
- ・補修と新設を比較する中で、既存施設活用の方が財政的メリットがあると判断している。一方、今後20年も経てば、使えなくなる施設もでてくる。雲南市を面的にカバーしていく考えが基本である。

## ■木次町

- ・木次町内の個別の内容については木次町での意見交換で行う。本日は市全体に関する意見を述べる。

### ①防災について

- ・避難所は交流センターが優先的に開設されるが、市との連絡に関して不安がある。
- ・交流センターの多くが電話回線は1回線でメールアドレスも一つ。発信専用の災害電話があるが、その他は個人の携帯電話でやり取りをすることとなる。
- ・先日、情報伝達安否確認訓練を実施したが、交流センターにかけてもつながらなくなるので、役員の携帯電話に電話をして報告する形にした。実際の災害の際にこれでよいか不安。電話回線を増やすのは難しいが災害時に増やす方法などを検討してほしい。

市長)

- ・災害時のみ使える専用回線については、そうした対応ができるような仕組みがあるかということも含め勉強したい。
- ・電話がつかないときの対応や、衛星電話なども重要である。
- ・災害時に市と地域自主組織の連絡方法が多くありすぎると混乱することも懸念。

### ②空き家対策について

- ・先般の地域自主組織事例共有会でもテーマとして取り上げ議論した。
- ・街部と山間部で状況が多少異なる。街部では家のことだけだが、山間部では田畑山林をどうするかという点も課題となる。
- ・先進的な取り組みをする組織と話したが、「地域自主組織だけで空き家対策に取り組むことは限界がある」という意見が多数で行政主導での空き家対策を求める意見が多かった。
- ・市では政策企画部のうなん暮らし推進課と建設部の空き家対策室があり、産業観光部や土地開発公社も関係するが、それぞれが独自に動いており縦割りの印象。横の連携が不足していると感じる。空き家に関することをトータルで関わる機構が必要。行政で難しければ、民間と行政で「空き家相談センター」を作れないか。出雲市や境港市では設置している。最初に相談する場所として。
- ・相続の問題も大きい。相続の課題あれば、相談センターから司法書士を紹介するなどの仕組みも検討を。補助金などの情報も。全体での相談の第一窓口を設置してほしい。

市長)

- ・危険空き家は建設部、活用は政策企画部という業務分担。いわゆる終活に関連することについては健康福祉部が担う。
- ・どこまでワンストップができるかということもあるが、窓口の必要性は理解でき今後検討する。

### ③人口増加地域での課題について

- ・斐伊地区は人口も小学校の児童数も横ばいで大きな団地もある市内では希少な環境の地域。
- ・一方で、住民の皆さんと地域の距離が遠くなっていると感じている。若い世代を中心に自治会に入らない、地域自主組織に入らない、役員も出さない、負担金も出さないという人が増えている。一方でイベント等を開催するとそうした親子等も参加する。運営者はずっと変わらず同じ者が担う。下熊谷地区も同様とのこと。
- ・地域に関わることを苦痛と感じている人が増えていると思う。市内の周辺部から斐伊に転居した方は、出身地の自治会に関わっていることも多く、斐伊での関わりが難しい面も。地域活動の負担を減らすことも重要。
- ・人口が減少する地域と増加する地域で市の施策に差が出ることは仕様がなない面も。人口の多い地域に新たなハード面での整備等も一定程度必要。
- ・団地に市や県の職員も住んでいるが忙しさもあるのか、地域の関わりが少ない人も。市・県職員に地元でも力を発揮してもらいたい。
- ・「地域をあげて地域づくりをしていこうという思いの醸成」と「負担が少なく関わりやすい入りやすい地域」という、二つの視点で、地域活動を考えていく必要がある。
- ・地域自主組織の役職員の後任確保が難しい。退職年齢延長なども大きく影響。70歳になって初めて地域自主組織に関わるのは難しい。早い年齢から地域自主組織に関わってもらえるような対策と、仕事として地域自主組織の職員を選んでもらえるような財源面等での支援を。給与はもちろん職場環境の整備なども配慮する必要あり。

市長)

- ・雲南市の良いところは地域の支え合いがあること。「安心」の部分の良さがある。一方、若い人を中心に負担感を訴える意見もある。その二つのせめぎ合い。対策は地域によっても異なると思う。
- ・同じことを楽にやること、関わりの負担を減らすこと。地域の特性に応じたやり方をしていく必要がある。連絡をLINE等を活用し手間を減らす取り組みをしている地域も。「今やっていることの負担を減らす」という点については市でも対策に取り組みたい。
- ・定年延長など、世の中の流れを変えること難しい。  
一方、昔の70歳と今の70歳は異なるとも思う。高齢になっても役割を担う考え方も必要。
- ・地域の担い手対策については、研修等を通じての担い手のきっかけづくりなどに、市としても引き続き取り組んでいく。
- ・地域活動をやることが自分にとって良いことだと思ってもらえるような環境づくりが最も重要。  
楽しみながら地域活動を行う意識につなげていけるよう市としても取り組みたい。

## ■三刀屋町

### ①瑞風バスの、立ち寄り観光について

永井隆記念館への瑞風バスの立ち寄りについて毎年要望しているが進捗について伺う。三刀屋町は「平和を」の取り組みに歴史がある。今だからこそ永井博士の平和への願いに触れていただくことは非常に有意義で、意味のある旅行になると思われる。

永井隆記念館への瑞風バスの立ち寄り観光実現に向けて雲南市として JR へ強く要望していただくよう引き続きお願いしたい。

- ・永井隆生い立ちの家も整備してもらった。記念館と生い立ちの家に訪れてほしい。
- ・瑞風の乗客は平和を謳歌している方々、そうした方にこそ見てほしい。

市長)

- ・永井博士関連施設等への訪問については、JRとの意見交換では毎回お願いをしているが進んでいない。
- ・瑞風は「日本の原風景を訪ねる」というコンセプトである。このコンセプトに「平和」の視点が合うのかというところもあるようだ。
- ・「あめつち」での周遊ツアーなども考えている。これは観光協会で企画していくため自由度が高い。

### ②部活動の地域移行について

保護者や地域へ情報提供されてから約6年経過したが、どのように実施されてきたか、進捗状況が保護者や地域へ伝えられていない。特に、保護者へは早急に説明の場を設け、情報共有してほしい。

市長)

- ・部活動の地域移行は、本格的に取り組み始めて3年目である。
- ・日曜日の合同部活動など実施中。ガイドラインなども作成中であり順次進めている。
- ・活動が保護者や地域に伝わっているかという点は不十分なところがあり、情報提供に取り組みたい。

### ③令和3年豪雨災害の災害復旧について

特に市道の災害復旧について、小災査定で落とされた箇所については、放置されたままである。土嚢も草が生えて放置の状態。住民の生活道路である為、小規模であっても修繕し安全安心の確保は必要ではないか。

生活環境の荒廃が地域にはボディーブローのように効いてくる。対応をお願いしたい。

市長)

- ・災害復旧の順序等は、地域に十分に伝わっていないところもあるかと思う。そんな中放置されている箇所について説明が足りず申し訳なく思う。
- ・具体的な箇所などを指摘いただき、必要に応じた対応をしていきたい。できない場合も理由を説明したい。

## ■吉田町

### ①空き家対策について

- ・吉田地区で15軒程度の空き家があるが、多くが手を付けられない状態の空き家。
- ・何年か前に市と一緒に空き家調査をしたが、その後市でも地域でも具体的な取り組みできていない。空き家の情報等をいかに情報発信していくかが重要。
- ・高齢者世帯も多い。亡くなると空き家になる確率が高い。そうした情報を地域自主組織で早く把握して、空き家バンク登録を勧めるなどの取り組みが必要。空き家になる前の対策が重要。
- ・吉田地区の連坦地では、(株)田部が空き家を買って、従業員の宿舎にするなど取り組んでおられ、空き家少なくなった。宿舎がないので従業員に来てもらえないということもある。

市長)

- ・空き家については住んでいるうちに対策を進めることが重要。市としても取り組みを推進する。

### ②防災について

- ・R3年7月豪雨でもそうであったが、昼間は若い人は外に出て高齢者しかいない。隣近所の人を避難する方を支援され近所の助け合いが大切と思った。高齢者同士での助け合いも必要。

市長)

- ・災害時要支援者名簿は日頃から心がけのためのものと考えている。実際には隣近所の助け合いが一番重要。名簿をつくって終わりではなく、声掛けができる環境をつくっていくことが大切。市も支援していく。

### ③小規模特認校について

- ・子どもの数は減少しているが、近年、他町から3名程度、吉田小学校に入学や転校があった。
- ・小規模特認校制度はR7年度からということだが小規模校にとっては良い制度と評価している。一方、通学について、「原則保護者が送迎する」ということとなっており、推進の障壁となると思う。そうした点でも、公共交通の充実を図る必要がある。
- ・大規模校から吉田に来た子ども達は少人数の環境で様々な役割を担い生き生きと活動している。

市長)

- ・小規模特認校の推進においては、併せて公共交通の整備も必要。吉田地区であれば掛合高校の高校生の市民バス通学ダイヤにあわせた対応もできる。市の責務として検討する。
- ・他自治体では「緑の学校」という取り組みもある。一定期間学校付近に宿泊してそこから通学する仕組み。こうしたものも参考になる。

### ④獣害対策について

- ・猿について、田井では昨年度市で大規模な捕獲檻を設置。一度に捕獲できたので捕獲直後は猿の出没減ったが、檻が撤去された後すぐ出没するようになった。小規模な檻が設置されたが、やはり大規模な捕獲が必要と思う。
- ・現在、柿や栗の木の伐採を市でも取り組んでもらっている。
- ・殺さない限り猿は減らない。予算設置、ハンターの養成を願う。

市長)

- ・猿の檻は予算の問題もあるが、餌代や餌の管理も課題。今は、地域おこし協力隊員が対応しているが、どのようにしていくか課題。いずれにしても強化の必要あり。猟銃資格取得費用の補助もしている。特に、罾でなく、ハンター養成が必要で補助している。

**⑤田井小学校への誘導看板設置について**

- ・田井小学校は校門が裏側にあり、たどり着くことが難しい。国道314号付近に誘導看板の設置を要望する。

市長)

- ・田井小学校の看板の件は所管課に伝える。

■掛合町

**①部活動の地域移行について**

- ・移動手段が課題。部活の選択肢が少ないため、住所を変えて、校区外の行きたい学校へ通学するケースが見受けられる。

市長)

- ・放課後に他の学校へスムーズに移動できるような仕組みを教育委員会で検討中。地域に協力をお願いすることも今後あるかもしれない。ライドシェアなども言われているが、人数は少ないので、空いている保護者が一緒に送迎し、保険などもきちんと対応するようなことも考えていく必要あり。
- ・小さい学校だからできないということがないような体制を早くつくりたい。

**②公共交通について**

- ・掛合町、吉田町でも、デマンドと広域路線バスを乗り継ぐことになるが利便性が低い。また、だんだんタクシーは利用しにくい。
- ・地域自主組織での公共交通の利用促進の取り組みも必要。
- ・先般、多根地区ではまずは自分たちが使い方や現状を知ろうということで、地域自主組織の役職員でだんだんタクシーと広域路線バスを乗り継いで、雲南病院に往復する取り組みをしたが、帰り便までの待ち時間が長く非常に使いづらいという評価。こうした意見を市に伝えていく。

市長)

- ・具体的に、「この便がないから問題」というような意見をいただきたい。ダイヤ改正に反映させていく、AIデマンドなど研究したい。
- ・他自治体でもいろいろな公共交通の仕組みがあり参考にしていきたい。
- ・バス、タクシーの運転手不足大きな課題。これに対する対策も併せて考える。

**③市道の草刈り・道路愛護について**

・今年度から草刈機の貸し出しなども実施されているが、マンパワーがなく地域での取り組みには限界がある。道路愛護の制度の見直しなども引き続き検討してほしい。

・個別の相談あれば建設部へ。

○全体を通じて

**■吉田町**

・河川の立ち木、大きくなっているものが流れると災害につながる。

市長) 逐次県に報告し続けることが重要。個別に連絡をいただきたい。

市長)

先般の豪雨や台風接近での避難所開設と運営の協力を感謝。振り返りを大事にしている。お気づきの点があれば意見をいただきたい。避難指示のタイミングについては色々ご意見あるかと思うが、安全安心のため早めに・広めに出すこととなる。ご理解いただきたい。

**■掛合町**

・市長との意見交換会で出た意見はこれまでも担当職員に伝わっていると思うが、職員が日頃から意見・要望に対し応えられるよう意識を持ってほしい。職員が答えられないと地域のストレスも溜まる。日頃の対応が重要で必要であれば県につなぐなどの対応を願う。

市長) 承知した。

--- 15:20 --- 終了